

第2回（仮称）第2次札幌市立高校教育改革方針の 策定に向けた検討会議 会議録

（検討ワーキンググループ会議との合同開催）

1 日時

令和8年（2026年）3月31日（火） 10時00分～12時00分

2 会場

札幌文化芸術交流センターSCARTS1階「SCARTSコート」（札幌市中央区北1条西1丁目）

3 出席者

別添のとおり

4 会議録

【事務局：田中学びのプロジェクト担当課長】

ただいまから、第2回「（仮称）第2次札幌市立高校教育改革方針の策定に向けた検討会議」と「検討ワーキンググループ会議」の合同会議を開催いたします。私は本日の司会を務めさせていただきます、札幌市教育委員会学校教育部学びのプロジェクト担当課長の田中でございます。よろしくお願いいたします。

それでは今回、両会議初めての合同開催となりますので、開会にあたりまして、山中委員長から一言ご挨拶を頂きたく存じます。山中委員長、よろしくお願いいたします。

【山中委員長】

本日は、「（仮称）第2次札幌市立高校教育改革方針の策定に向けた検討会議」と「検討ワーキンググループ会議」の合同開催となります。次の高校改革方針の策定に向けて、様々な立場にいる検討会議委員からの広い視点と、ワーキングの先生の現場からの視点、そういったものを双方認識しながら作っていきます。次の10年の教育改革に関しては、おそらく共創とか共感とか、そういう言葉が入ると思いますが、まさに作る場からそうあって欲しい。そういう気持ちがあっという間に会を提案し、事務局の方で用意していただきました。ありがとうございます。

そして今、まさに学習指導要領の改定に向けた審議が進んでいますが、本日の午後、ご講演いただく溝上先生も入っている部会になりますが、中央教育審議会の教育課程企画特別部会での論点整理では、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生の舵取りをすることができる民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む」とされています。これは素晴らしいと思いますので、それに沿って我々も進めていく必要があると思います。

その一方で、今、世界で何が起きているか見てみると、突然アメリカがイラクと戦争を始めたことがあります。石油が止まってしまうとどうなるか。今、不織布のマスクをしている方もこの場におられますが、これも石油製品で出来ています。それから透析用製品とか、手術する時の手袋、これも全部石油製品でできています。在庫が数ヶ月しかないそうです。さあどうしようという状態です。また、自己透析の方がこれで亡くなってしまうかもしれないというのが、旧ツイッターのXで2、3日前から流行っています。こういう世界です。日本は自給率を下げてでも世界に開かれた活動をしてきたおかげで、いろんなものを輸入できるわけです。札幌市は素晴らしい街ですが、それと同時にパラサイトのように世界中から物を集めてきています。そういう人たちがどういうふうの世界に影響を与えていくか考えていく…。つまり、今から20年後、30年後。ちょうど24年後が2050年ですけど、そういう時に住んでる人は誰だろうか...そのようなことを考えた時に、この将来を担う高校を考えていくこの会の役割はとても大きいと思います。

私は今から15年前に藻岩高校の野口校長先生が一般教員だった時に、野口先生から「藻岩で話してくれませんか」というお話をして下さりました。SPPというSSHの前のプログラムですが、その時から15年間藻岩でずっと喋り続けています。その頃はまだ理系人材とかそういうイメージだったんですが、今の藻岩はもうここで説明する必要もないぐらい、探究人という形で社会でキラキラ人と呼んで話しをしてもらっている。私もその15年間で変わりました。自然科学者から、社会を作る担い手の教育者に変わりました。

では、10年前はどうだったのでしょうか。ちょうどSDGsが決まったりとかパリ協定が決まったりした頃です。なんとなくもうSDGsも色褪せてきて、10年で効力がここまで落ちたかなみたいな感じもしますが、この会が作るのはそういった10年先を見据えた計画です。だから今ある延長もありますが、何か突然予期せぬことが起こったらどう考えることも見据えなければなりません。ですので、今回ワーキングが出してくださった提案を元に話をしようと思っていますが、かなりぶっ飛んでもいいと思っています。いろんなアイデアをここに入れていただくと。皆さんの中で作られていくなかで、だんだんとトーンが下がっていくこともありますが、ぶっ飛んでみないと始まらないというところもあります。

例えば、私だとジェンダー・エクイティとかこういう言葉をやっぱりちゃんと大切にしたいと思っています。これはジェンダー、女性が言うものだというふうに考えるのはやめましょう。男性が堂々とジェンダー・エクイティを言わなければならない。それからネクスト・ハイスクール構想を見ると、やはり国際性というのがすごく弱い。グローバル人材を作らなければならないといっていますが、札幌の街、特に私は北大にいることもありますが、私の大学の建物では、いろんな言語が飛び交っています。欧米だけでなく、中国だけでなく、アフリカからもその国のエリートが来ていたりとかそういう時代です。やはり国際化あるいはそのグローバル化に対応することが必要なと思います。

委員長の特権として今話させてもらってますが、もう一つ入れたいと思うのは、皆さんのことです。高校の先生は子どもたちがこうなって欲しいということで、どうしても子どもたちを主語にしてますが、教員の皆さんが幸せでなければ、教員の皆さんが輝いていなければ、子どもたちも輝く姿に変わっていかないと思います。だからぜひとも皆さんがいい教師でありつつけるためをどう目指すかというところも重要なと思っています。

私は札幌市にこの10年関わってきていますけれど、すごくいい教育をやっています。その一つ一つが尖っていて、更に3月にはここでプレゼンテーション大会がありましたが、8高校と連合、つまりユナイテッド(united)を作っています。もうこれを伸ばしていけばいいじゃないかって思うんですけど、世の中はめっちゃめっちゃ変わってきています。先ほど言ったように10年前がSDGsパリ協定だったんだけど、それをもう高速劣化させるように進んでますので、10年でこれだけ変わりました。それを見据えて、さらに他の追随を許さないような素晴らしい素敵な高校を目指して、最初の小さな種火が、皆さんが入ってる検討会議やワーキングから生まれてきて、それが高校全体に広がっていく。そういうことを考えて今日の時間を迎えてください。皆さん一緒に話し合しましょう。よろしくお願いします。

【事務局：田中学びのプロジェクト担当課長】

山中委員長、ありがとうございました。

なお、本日の会議ですが、札幌市PTA協議会の林委員、八軒中学校長の伊藤委員が所用により欠席されておりますので、ご報告させていただきます。

それでは続きまして、事務局より「新委員について」「高校教育改革に関する基本方針の公表について」「これまでの検討状況及び本日の進め方について」の三点についてご説明いたします。

【事務局：村山学びのプロジェクト担当係長】

それでは私の方から最初の2点についてご説明いたします。

まず1点目の新委員についてでございます。本検討会議におきましては、市立高校および中等教育学校の各校から1名の管理職の方に委員に就任いただいておりますが、令和9年4月開校の彩輝高校について、高校再編準備担当課の久保課長が今年の1月に学校長としての兼務発令を受けました。つきましては今回の会議から、本検討会議の委員に就任いただいておりますのでご報告いたします。久保校長、一言ご挨拶をお願いいたします。

【久保委員】

皆さんこんにちは。高校再編準備担当課の久保と申します。1月21日に彩輝高校学校長の兼務発令を受けたということで、今度は新しい学校を作る立場から、この検討委員会でいろいろご意見を出していければなという風に考えてます。どうぞよろしく申し上げます。

【事務局：村山学びのプロジェクト担当係長】

ありがとうございました。続いて2点目の国が定めるグランドデザインについてでございます。

文部科学省の「高校教育改革に関する基本方針」については、昨年末に開催した第1回検討会議においてその骨子についてご説明させていただきましたが、今年の2月にその全体が公表されたので、その概要について簡単に説明させていただきます。

お手元には概要版と本書、その2つをお配りさせていただきましたが、本日はA4横カラーの概要版に沿って簡単に説明させていただきます。まず国が本グランドデザインを策定した背景でございますが、AIの実装などデジタル技術の目覚ましい発展に加え、2040年には少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化することから、現在のままでは将来的に大きな労働力の需給ギャップが発生する見込みが高いということ。その一方で、将来を正確に予測することが難しく、どのような未来が訪れるかわからない時代だからこそ、生徒の多様な個性やニーズ、興味関心に応じた学びを生かした自己実現を支え、生徒の可能性を広げ、能力を伸ばす必要があるということ。さらには、全ての高校生が家庭の経済状況等に左右されることなく、希望する進路に進めるようにすることが個人の幸福、また国の経済社会の基盤強化につながっていく。そういった考えのもと、これらを実現するために、様々なステークホルダーが共通のビジョンを持って社会変革に対応する高校教育を丸となって実現することが必要だとされております。

そこで、2040年を見据えた高校改革の方向性として3つの視点が挙げられております。1点目が不確実な時代を自立して生きていく主権者としてAIに代替されない能力や個性の伸長。2点目が我が国や地域の経済社会の発展を支える人材育成。3点目が一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会アクセスの確保ということで、これらの3つの視点を重視しながら今後の高校改革を進めることとしております。

そして裏面の方に移っていただきまして、今後の進め方についてになります。まず国のグランドデザインが策定されました。それを踏まえて都道府県の方で令和8年度中に実行計画を策定いたします。そしてその実行計画の内容について進めるために、令和9年に新たに創設される交付金を使って財政支援を受けながら高校改革を進めていくとしています。

具体的な高校改革の中での新しい学校のイメージと取り組み例というのが3つ示されております。1点目が専門高校の機能強化・高度化ということで、地域発のイノベーションを起こすような人材等の育成を目指すというもの。2点目が普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化ということで、文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材の育成をする。そして3つ目が地理的アクセス・多様な学びの確保ということで、学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会課題を主体的に探究・解決できる人材を目指すというような形で、柔軟で質の高い学びの実践をしていくとされており、3つの類型が示されており、2040年までに達成を目指す目標値というのも示されております。

また、交付金の活用が令和9年度からとなりますので、それに先立って、高校教育改革のための基金を都道府県に設置し、このネクスト・ハイスクール構想の実現のためにパイロットケースとして先導的な学びのあり方を構築する高校を創設するとされております。都道府県ごとに、原則、類型ごとに1校ずつ計3校。最大で4校まで、都道府県の中の高校改革を先導的に行う学校を選定することとなっており、これが令和8年度からスタートします。先ほど久保校長にお話しいただきましたが、令和9年4月開校予定の彩輝高校において、商業科の目線と新しい普通科の目線で、専門高校の機能強化・高度化と、普通科改革を通じた高校の特色化の2つの類型で、現在、道の方に申請をしております。道の審査や文科の審査がありますので、採択されるかは分かりませんが、今、そのような形で彩輝高校が、この先導拠点校としてエントリーしていることをご報告させていただきます。以上でございます。

【事務局：西野高等学校担当係長】

代わりまして私からは、これまでの検討状況および本日の進め方についてご説明させていただきます。資料ですが、お手元にA4横ホチキス留めの資料がございますので、そちらと合わせてご覧ください。

まず初めに今日までの流れですが、昨年12月26日の検討会議で、高校教育の現状やこれまでの取り組みの共有、各委員の立場からの意見共有を行いました。年が明けまして1月25日にはワーキンググループ会議ということで、こちらでも高校教育の状況やこれまでの取り組みの共有、また各委員からの立場からの意見共有を行いました。ワーキングは続けて2月にも行いましたが、その間ワーキンググループの先生方には、事前に資料を作成いただいて、自分たちで今考えてやってみたい授業ですとか取り組み、あとは育てたい生徒の姿みたいなのを事前にご準備いただいて、2月27日にそちらを共有しながら、さらにブラッシュアップをかけていくというような時間を過ごしております。

その後、有志ではありますが、3月8日に実施した市立高校プレゼンテーション大会で、現在の市立高校生の姿、学びの成果発表を皆さんに見ていただきました。そして本日の合同開催という形になっております。

ページをおめくりください。3ページにある内容ですが、こちらはワーキング会議の方々が提案して下さった内容を箇条書きで載せております。中身を見ますと、自律ですとか越境という言葉、また参画という言葉が出てきております。さらにウェルビーイングという言葉ですとか想像力。さらには札幌に誇りを持つというような言葉も上がってきております。

次に4ページをご覧ください。先ほど3ページであげた育む生徒の姿をどのように育成、具体化していくかということで、3つの基本的方向性というものをそれぞれの委員の方々から出していただいております。後ほどゆっくり見ていただきたいと思いますが、これまでの方針を土台として、さらに社会とともに歩む教育活動の推進。持続可能な高校の体制の構築、学校と札幌の未来を考えることができる仕組みづくりというものがあげられました。

続いて5ページをご覧ください。こちらでもワーキングの委員の方々から出していただいた具体的な授業、取り組みについて一覧で箇条書きで載せております。現行の方針と重なる内容については黒文字、そして新しい内容については青文字で示しております。なお、拾い切れてない部分もあるかと思っておりますので、ぜひワーキングの先生方、もしご自身があげた内容が載っていない場合は、本日のこの場であらためて共有いただければなと思っております。

そして、これまでの3ページ、4ページ、5ページのようにワーキング会議で提案された意見を踏まえて、事務局で整理した内容が次の6ページになります。どのように整理したかと言いますと、継承と進化ということで、これまでの方針にございました、主体性、協働、社会貢献というところ

ろを、もう少し整理して、これからの先ほど委員長からもございましたが、予測困難な時代を生き抜くためにももう少し解像度を上げていこうということで、3つ整理しています。

主体性という部分については、与えられた課題をこなすだけではなくて、自ら問い立てる自律へと。2つ目は協働。単なる協力から、異なるもの同士がつながり新しい価値を生む共創、越境へと。3つ目が、参画やウェルビーイングを追求する生徒ということで、これまでであった社会貢献というところから、外から貢献するだけではなくて、自分事として参画しウェルビーイングを追求すると。このような形で、現段階で市立高校で育む生徒の姿としております。

7ページご覧ください。ではその姿をどのように育成していくかと育んでいくかということで、整理をさせていただきました。整理の仕方についてですが、3つに分けております。1つが青い部分の各学校での取り組み。2つ目が市立高校共通の、連携をした取り組み。そしてその2つを、各学校と連携した取り組みを支える土台となる持続可能な仕組みとして推進基盤の3つに分けております。先ほど3ページで上げていただいたワーキングの先生方があげていただいた内容を、この3つに分類をして、一旦仕分けをしているところでございます。

本日は、この2ページにわたる内容を、皆さんでご確認いただきながら、最後のページに載っております本日の協議テーマということで、ワーキングで浮かび上がったアイデアを元に、2つの点について議論していただきたいという風に思います。

1点目が6ページの内容を参考にさせていただいて、今後の検討の方向性としてまずは妥当かどうかと。また不足している要素はないか、もっとこんな形の方が良いのではないかなというような観点からぜひ意見を出し合っていただきたいなという風に思います。

もう一つは、7ページの内容を参考にさせていただいて、主な事業、取り組みの検討を見ていただければという風に思います。市立高校で育む生徒の姿を実現するために必要な施策について、既存の枠組みにとらわれず、さらに具体的なアイデアをどんどん出し合っていただければなという風に思います。

各テーブルのワーキングの先生方が、進行していただくことになっていますが、ワーキングの先生方も積極的に、ご意見いただければなという風に思います。そして最後には各テーブルで話し合った内容を共有させていただいて、次回のワーキングにつなげていきたいという風に思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局：田中学びのプロジェクト担当課長】

それでは、ただいま事務局からご説明したとおり、グループ協議に入らせていただきます。

お時間は、協議に60分程度、協議内容の発表に30分程度を予定しておりますので、11時30分まで各グループごとに協議をお願いいたします。

休憩については、グループごとに適宜取っていただければと思います。それではよろしくお願いいたします。

<グループ協議（60分間）>

【事務局：田中学びのプロジェクト担当課長】

それではお時間になりましたので、各グループごとの協議内容について、発表いただきたいと思います。お時間については、一グループあたり、5分以内でお願いできればと思います。

それではAグループからお願いします。

【Aグループ】

Aグループの中では、市立高校で育む生徒の姿、育成を目指す資質・能力についての部分では、足りないというか、こういうところもぜひ加えて欲しいなというところでは、主体性の部分で、全体的に優しい部分が多かったので、もう少し厳しさというか、挑戦とか力強さ、チャレンジする生徒というようなところを加えてみてはどうだろう、というようなお話が出ていました。あとは、2番目にまとめられていた共感・共創を生み出す生徒というところでは、逆に、もうちょっと優しさというか、他者を受け入れる優しさ、それから寛容とか、札幌という土地ならではの、札幌出身じゃない方もいらっしまったものですから、札幌という土地柄の持っている寛容性とか優しさみたいなものをより前面に出した内容を入れたらどうだろうというお話が出てきました。参画というところは1番の主体性につながりますが、チャレンジするようなところを入れたらどうだろうというお話が出てきたというような中身になっています。

後半部分では主な事業・取り組みの検討というところでは、本当にいろんな意見が出てきましたが、一つ、現状仕組みとして出来ていない、他校に行って単位認定という、各校の魅力を市立高校の生徒が享受できるような、この授業を他の学校に行って取るみたいなことができないだろうか。でもそのためには、例えば、今移動時間が非常に問題になっているので、真ん中あたりに書いてありますけれど、バスみたいなものを用意して、他のところへ授業を受けに行ったりとか、例えば、開成中等に行ったら電子顕微鏡があるから、電子顕微鏡を使いたい人は開成中等にこバスで行けるとか、3Dプリンターを使いたかったら旭丘に行けるとか、そういうような仕組みを整えることができないか。そういうものをちょっとこう入れられないかっていうようなお話が出ていました。

あとは、月曜の午後は共通して空けるという風に書いてありますが、これは先生方の研修とか、授業をするにあたっての先生方の資質能力向上のための時間という意味合いもあって、月曜の午後と決めなくてもいいんですけども、各校の中で探究的な学びを追求する中ではやはり先生方の時間的余裕、それから探究に使える時間というのを確保することもやっぱり大事じゃないか。そしてこれは、各校でというというか、市立高校全体として、1週間のうちに半日は空けて、そういう時間を確保して、先生方自身も学習者としてやってるんだよっていうところをしないと探究的な学びを作っていけないんじゃないかというようなお話が出ていました。

あとは、部活動とかについても地域間の連携、学校間の連携とか小中高の連携もしていったらいいんじゃないかというのが出ていたのと、探究的な生徒を育てていく中では、放課後越境チャレンジ、東京へ行ってこい、お金の粋とか出てますけども、生徒の探究とかに関わるチャレンジについて、お金を出すような基金を市立高校全体で作ったらどうだろう。こういうことやりたいんでお金が必要、東京へ研究会に行くお金がもらえませんかという子に対して審査をして、お金を出していくような、そういう基金を作ったらどうだろうかというようなお話も出てきました。また、ある学校だけが選ばれるような形にするんじゃなくて、他の学校と連携した共同研究みたいなものに積極的にお金を出すような、そういう交流を図って、そして他の子たちも、それを見て引き上がっていくような、そういうようなお金の使い方もできる基金みたいなものを作ったらどうかというようなお話が出てきたと思います。

【事務局：田中学びのプロジェクト担当課長】

ありがとうございました。続いてBグループの発表をお願いします。

【Bグループ】

まず最初に、社会の立場から松田さんからキャリアラダーの点で生徒の姿を決めるっていうのはどうなのかということで指摘していただきました。いろいろ話していく中で、この生徒の姿を

掲げる点で、生徒に枠を与えてしまうと、中にはこうあるべきだろうっていう裏をかいて、大人がこう期待してるっていうところに当てはめてしまうんじゃないかなど、いろいろお話が出ました。あとはこの姿を見てると、もう出来ている子、例えば市立高プレゼンで発表してる子とかはできてるよねと。では出来ている・出来てないで決めるのはどうかってことで、対子どもではなく、教員に向けた指標として、こういう風な生徒を育てたいっていう風に、例えば普段の授業とか学校生活、学校での業務とか出来ていますというような指標であればいいんじゃないかと。そして最後にゴールではなく方向性という点で、お話をしました。

あとは、小学校・中学校っていうところで型をしっかり学んで、そして高校は社会につながっている部分があるので、支える場であることが大事だということと、先ほどの方向性っていうのが結びつくのかなっていうところで話が出ました。あとは幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校、大学、社会とのつながりも見ながらっていうのは大事だなということが話し合われました。最後にやはり教員の研修の場、先ほどのグループも出てましたが、やはり実動隊として、こういう方向性とか決めていきましょうという中で、実動隊の研修や、そういう意識のすり合わせの時間が大事ですよ、という話になりました。短いですが、以上になります。

【事務局：田中学びのプロジェクト担当課長】

ありがとうございました。続いてCグループの発表をお願いします。

【Cグループ】

まず資質能力の確認からいきますが、自律的に探究するといったところの話で、一番はやっぱりAIについてのご意見いただきましたが、大学教育の授業を持っている方に話を聞いたところでは、2割ぐらいは自由にできるんだけど、残り8割はできないと。やっぱりそういったところで何か自由にやってくださいっていった時に、できない方はやっぱり今まだいると。まだ高校生のうちにそういったところをしっかりとやって、自律自走というか、自分の考えを持ってしっかりと動くというのはやはり大切だよなと。そういったところに、AIの活用能力のボトムアップ。使える2割ではなくて、もっとそこを上げていくような取り組みはどうなんだろうという話を展開していました。

あとは、探究の授業を担当する先生方もやっぱりそういったところで不足もして、出来ないといったところ。また先生方の多忙感みたいなのところも話は出て、そういうところもAIをうまく使いながら当然できるよねといったところ。社会現場というか地域も含めて、皆さんそういったところ同じ課題感というか、そういったところの話はしてたかなと。あと民間学校といったところでの育成の場にコーディネーターがどうしても必要不可欠であるといったところの話。いろんな窓口というか、場所はもうだいぶ展開されているんですが、それをどうつなぐかっていう話は、当然あってしかるべきといったところでございます。

次に、自分で問いを立てるっていうところ。そこに関しても変容といったところが重要ではないのかと。目標点として事務局の方でも整理していただいているんですが、その過程としてしっかりとどう変わっていったかといったところを、しっかりとこの中に入れていけばいいのかなとか、そういう認識があるべきなのかなといったところは確認しております。目標点が示されていますが、そういったところに達していなくても、個別な変容があるといったところについて、しっかりと押さえるべきではないのかといったところでございます。

あとは、AIについても使うのが目的ではなく、活用できる人間力というか、人が大事だよなといったところで、ただ使えばいいとなりがちな部分も、やはり指摘していかないといけないかなと話をしております。

共感・共創の部分についても、今は協働しなさいとか、こうしなさいという風な教員の投げかけの部分がとても多いです、それであまりいい経験をしていないって部分もあったりとか、そういった部分についてもどうなのかなと。当然、その協働の中の過程も、楽しめたりとか自分自身も評価できたりとか、自分たちがどうだったかといったところも評価できて、自分のその変容の部分といったところにしっかりと取り組めるかという話も出ております。

あとは探究的な学習だけではなくて、学校行事とか、学校生活の色々なところでも出来るのではないかなと。イベントごとでどうこうっていう風な話でもなく、普段の学校生活からでもそういった共感・共創という部分は当然育まれるべきではないのかといった話も出ております。

あとは、語学力といったところ。どうしてもそこのところはAIの部分だけではなく、しっかり英語が話せるといったところ、ここに関しても、しっかりと国際社会の中で生き抜くというか、意思決定ができるような、そういったものがまだまだ不足してるのではないのかといったところ。いろんな選択肢はたくさんありますが、そういった基礎力というか、語学力の部分は当然大事になってくるので、開成のバカロレアの取り組みは、すごく進んでいます、では市立高校全体ではそこはまだ波及されていないのかなと。先生方のノウハウとかいろんなものは蓄積されていますが、そういったところがまだまだ波及されてないので、語学力の部分では絶対大事ではないかと。

そういった取り組みも含めて、市立高校プレゼンについても色々動いていただいているんですが、生徒がしっかりと取り組みをコーディネートというか、自分たちで組み上げていってるとか、そういう経験があってもいいんじゃないかなという話も出ております。

また先ほどバスの話もあったかと思いますが、市立高校間の授業を受けるのに、バスを新たに動かすよりか、地下鉄のフリーパスのようなものがあるのもいいなと。ワーキンググループの話でもそういった話があったことを共有させていただきました。

インターンシップの取り組みとかもあったんですけど、やらされてやるような経験も当然必要なのではないかとか、後段部分のその教えるとか、成長させてくれるとか、そういったところのキーワードも出てきたかなというところでございます。

最後になりますが、今考えてる中でもしっかりとこの市立高校の強みといったところ、札幌市の学校ですので、札幌市の上位計画に沿った形で動かなければならないといったところも最初確認したところでございます。まあこういった取り組みを今度、取り組み自体を独自評価して、その成果をしっかりと、例えば大学進学とか就職とか、そういったところにしっかりと活用される方法が何かないのかなと。ある種プラットフォームといったところの確立から、どんどん自分の取り組んでるものが外につながるっていったところにしっかりと入っていく。そういった仕組みづくりが最終的に必要なのかなというところで話を終えたところでございます。以上でございます。

【事務局：田中学びのプロジェクト担当課長】

ありがとうございました。続いてDグループの発表をお願いします。

【Dグループ】

Dグループでは、現行の振り返りと、次期の柱の文言整理に時間をかけました。現行の振り返りとしましては、主体性・協働・社会貢献という3つの柱だと、これからの予測困難な時代を生き抜くことはできないのかというような問いに対して、Dグループには開成の卒業生の方がいらっしゃるしまして、卒業生の方のお話では、プロセスを立てて学びに進む姿勢は高校時代からも高まっていた。また開成の先生たちが楽しく学んでいる姿から、非常に未来にワクワクしていたというお話を聞くことができました。これは新しい柱のウェルビーイングにもつながっていることで、学

び方を分かっている、学びをデザインできる。新しい柱の自律的に探究する生徒っていうところにもつながるのかなという風に感じておりました。また今、社会人として働かれています中で、何に対してもやらされる感がなく、主体的に向き合うことができているという話を聞くことができました。現行も、また次期の3つの柱も、こういうような卒業生を生むことができると非常に望ましいというような話をさせていただきました。

また、問いを立てるとという言葉が、非常に多くいろんなところで出ていますが、これも卒業生の谷さんのお話でしたけども、同級生の中には、そんなに自分の中に問いはない。問いを立てるとという言葉が、一人歩きしないようにしなきゃいけないなというような思いもありました。色々なプロセスを、経験を踏まえながら、結果的に自ら問いを立てられる生徒を育てるということが非常に大切なことなんだなという風に認識をしておりました。

次期の柱に向けて、3つの柱が目指すものなのか、達成するものなのか、どういったものなのかということ、しっかりと目線合わせることが重要になってくると。この3つの柱を実現していくためには、各校の先生たちの共感が必要で、どのように先生なりに考えて現場で向き合ってもらおうかということが大切で、最後にいろんな過程を経て、3つの柱が出てきますけども、その最後の部分だけ見てもらっても、なかなか共感してもらうことはできないのではないかな。そのためにも、教員の人材育成を深めていく必要があるという話が出ていました。

また、大きな視点にはなっていますが、こういった柱を考える上で、市立高校全体としての高校教育とは何かということ、もう一度立ち戻って考えていくことも必要なのではないかなということも出ておりました。各学校にどのようにこの3つの柱を落とし込んでいくか、そして、今回資料の6ページ目に出ました、3つの柱に対しても、これから大きく変えていく必要はない。不足している部分を補っていく部分が、青色の部分だという風に考えているという意見が出ていました。現在協働することは非常に強くなっていますけども、予測困難な時代では新しい価値を作り上げていく共創という視点がより重要になるという視点もございました。

6ページ目の3つ目の柱のところに、ウェルビーイングの「追及」というところで、説明のところに記載のある「追求」という2種類の漢字が出てきたもので、グループDの中では「追い求める」方がふさわしいのではないかなという話にたどり着いております。また3つ目の柱のところで、ウェルビーイングという言葉自体が入っていた方がいいのか、3つの柱に向き合うことによってウェルビーイングにたどり着くものではないかなというような話も上がりました。

最後に具体的な取り組みのところになりますが、今回次期の大きなところで言いますと、土台があって、その上に市立高校の共通・連携、そして各学校の取り組みというところで、土台のところワーキンググループでも話し合われていたところについては、どうお考えですかというお話を聞く場面がありました。また、全国募集とはどういうことですか、あとは各学校からいろいろ取り組みたい希望が上がってきたときに、人的な配置が取れるかという視点も非常に重要だという話で最後終わりました。以上報告になります。

【事務局：田中学びのプロジェクト担当課長】

皆さま、ありがとうございました。それでは各グループからの発表も踏まえ、山中委員長と杉山副委員長に一言ずつ感想等を頂きたく存じます。

杉山副委員長、よろしく願いいたします。

【杉山副委員長】

皆さん、協議お疲れ様でした。各グループからの発表もありがとうございました。今一通り聞かせていただいて、まず率直に感じていることがいくつかあります。本日、検討会議とワーキン

グの合同会議ということで、これまでワーキングでご協議いただいていたことを共有し、こういった対話の場を設けていただいていたことに良かったなと思っています。

スライドの6、7を振り返ってみますと、市立高校で育む生徒の姿、育成を目指す資質・能力。ここに書かれていることは、与えられたものだけをこなす対応をするのではなくて、自ら問いを立てて考えて実行に移していく。異なる立場の人たち同士が会って結びついて、新しい価値を産むチャレンジをしていく。そして自分事として参画して、ウェルビーイングを追求していく。これは生徒たちに育んでいきたい資質能力であるとともに、そういった生徒たちを支える先生方並びに地域の皆さんにも、実践の中で求められていくものであらうと思いますし、その方針を作っていく私たちにもやはり、改めてこのことが求められ、問われているなど感じながら今日の協議を振り返っています。

そして、この検討会議とワーキングは、形式的にはその方針を策定することを目的に設置されている会議体だと思いますが、やはりその方針を策定することはあくまで手段なのだ今日の協議を通じて認識しました。つまり、これから10年間の高校教育改革で何を具体的に実現していくかということが協議の主眼ではありますが、それをどのように実現していくかということ抜き議論を重ねていっても、やはり理想論で終わってしまうなという風に思います。ですので、様々なアイデアを掛け合わせながらこれからのその方針を考えていく。6ページ目、7ページ目に書かれているようなアイデアをもっともっとブラッシュアップしていく。それと同時に、それをどのように実現していくかという方策をセットにして考えていかないと、結局、方針のための方針になってしまうと考えています。その点、それぞれの学校の現場の状況であるとか、先生方の感じておられる感覚、所感を直接伺えたのは、検討会議のメンバーにとっても非常に重要な情報共有になったなと思います。

その具体的な方策を考えていく中で、今日各グループの話にも織り込まれていましたし、最後のDグループの言葉を借りるならば、こういった方針を共有していくときに、最後だけ見せてもらってもなかなか共感できないだろうというのは、本当に考えなきゃいけない現実です。つまり、やはり方策の部分、方針を立てながらその実現に向かう条件をどのように担保していくかっていうところは、鍵になってくるなと考えます。

そういう意味では、事務局の方でまとめていただいた7ページの1番下のところや、グループの発表でも何回か「仕組み」という言葉が出てきていました。方針を作りながら、それを実現させていく仕組み。具体的な仕組みをセットで考えていくことが、非常に強く求められてるっていうことを、学校の現状や先生方の声を聞けば聞くほど強く感じました。

先生方の研修、生徒たちに日頃直接、接しておられる先生方をどういう風に応援していくことができるのかというところでは、現在行われている研修の整理であるとか、改善を要する点がないかどうかという点検もあるかなという風に思います。より多くの地域の大人が、これから生徒たちのために、よし一肌脱ごうと。先生方とともに、地域とともに歩いていく高校を作る上で、地域の人たちにどう火をつけていけばいいかっていうこと。実績もかなり積まれてると思いますが、これからもっともっと考えていくことで、これから策定していく方針以上の成果をみんなで作っていくことができるんだらうなと思います。

私たち自身のあり方が問われている。生徒たちのことを考えるということは、私たち自身のあり方が問われているということであるし、こういった方針を策定する上で、様々な立場の方々対話を紡ぎながら、積み重ねながら、それを実現していく方策をしっかりと検討していかなくちゃいけない。

今日の内容は、本当に勉強になるお話ばかりです。今後ワーキングと検討会議に分かれて協議をしながら、またどこかで接点を持ちながら、一つの形を作っていくと思いますが、繰り返になりますが、このタイミングでワーキングの皆さんとテーブルを共にすることができて本当に良

かったです。検討会議もこれから何回かステップを踏んでいくと思いますが、一つの形を作るために、それぞれのところで協議を重ねて、またこういった場で共有しながらこれからのビジョンを一緒に作っていったらなという風に思います。本日はどうもありがとうございました。

【事務局：田中学びのプロジェクト担当課長】

杉山副委員長、ありがとうございました。続きまして、山中委員長、よろしくお願いいたします。

【山中委員長】

皆さんお疲れ様でした。どうでしたかね。皆さんいろんなこと考えたと思います。もう僕から言う言葉は何もありません。この時間をそれぞれ皆さんに使ってほしいと思いますので、今ストップウォッチを持っております。1分間だけ、皆さんこの場がどうだったか、考えてみませんか。これが振り返りです。今からスタートしますよ。はい。

<各自振り返り>

はい、ありがとうございました。どうでしたかね。私が1分話すよりも有益な時間が流れたのではないかと思います。皆さんがそれぞれ考え、対話の場がいいなと思ったのは、皆さんがすごい素敵な意見をたくさん出してくれて、資料の6ページ、7ページ目にさらにいろんな思いを追加してくれたのではないかと思います。ありがとうございました。

【事務局：田中学びのプロジェクト担当課長】

山中委員長、ありがとうございました。

その他、何かご意見やご質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。

<意見・質問なし>

【事務局：田中学びのプロジェクト担当課長】

特に無いようであれば、最後に事務局から事務連絡をさせていただきます。

【事務局：西野高等学校担当係長】

皆様お疲れ様でした。本日の午後ですが、今日お話しいただいた内容を頭の中に思い浮かべながら、次は国の動向というのを皆様にお伝えできたらなと思ひまして、東京から溝上慎一先生がいらっしゃっていますので、1時半にこちらの方にまたご参集いただければなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局：村山学びのプロジェクト担当係長】

私の方からあと1点だけ。今後の協議の進め方ですが、本日いただいた意見を踏まえながら、ワーキングでもう少し協議を行い、それを踏まえてまた検討会議を開催させていただきたいと考えています。おそらく7月か8月頃が、3回目になるかと思ひますので、詳細が決まりましたら、また改めてご案内差し上げます。

【事務局：田中学びのプロジェクト担当課長】

それでは、以上で会議を終了させていただきます。長時間、ありがとうございました。

<終了>

■（仮称）第2次札幌市立高校教育改革方針の策定に向けた検討会議委員（敬省略）

	氏名	所属・役職	協議グループ
1	山中 康裕	北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授	A
2	杉山 晋平	明治大学文学部 専任准教授	B
3	石本 茂史	札幌商工会議所 事務局長	A
4	土田 美那	AWL株式会社 CHRO 兼 上席執行役員	C
5	林川 希	札幌市PTA協議会 副会長	欠席
6	佐藤 由花子	市立札幌藻岩高等学校 PTA会長	A
7	名達 諒	市立札幌大通高等学校卒業生（合同会社RaShiSa 代表社員）	C
8	谷 郁果	市立札幌開成中等教育学校卒業生	D
9	林 匡宏	株式会社commons fun 代表取締役	C
10	松田 考	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 こども若者支援担当部長	B
11	小泉 泰之	市立札幌旭丘高等学校 副校長	A
12	牧野 弘幸	市立札幌新川高等学校 教頭	C
13	加世田 一憲	市立札幌平岸高等学校 副校長	D
14	三関 直樹	市立札幌清田高等学校 校長	D
15	細田 亜紀子	市立札幌藻岩高等学校 教頭	A
16	勝田 敏正	市立札幌啓北商業高等学校 教頭	C
17	幸丸 政貴	市立札幌大通高等学校 校長	B
18	畠山 正樹	市立札幌開成中等教育学校 教頭	D
19	久保 和也	市立札幌彩輝高等学校 校長（高校再編準備担当課長）	D
20	加瀬 富久	札幌市立円山小学校 校長（札幌市小学校長会 副会長）	B
21	伊藤 達也	札幌市立八軒中学校 校長（札幌市中学校長会 調査幹事）	欠席

■（仮称）第2次札幌市立高校教育改革方針の策定に向けた検討ワーキンググループ会議委員（敬省略）

	氏名	所属	グループ
1	九嶋 和	旭丘高等学校	C
2	近藤 陽祐	新川高等学校	B
3	宮森 正人	平岸高等学校	C
4	關川 拓人	清田高等学校	A
5	長井 翔	藻岩高等学校	D
6	嶋守 徹	啓北商業高等学校	C
7	石山 俊央	大通高等学校	D
8	山崎 恒輝	開成中等教育学校	A
9	天野 由美香	学校教育部高校再編準備担当課	B
10	平野 順風	株式会社commons fun（オブザーバー）	D
11	嶋本 勇介	株式会社コエルワ（オブザーバー）	A
12	大湊 亮輔	一般社団法人Ezofrogs（オブザーバー）	欠席
13	月館 海斗	株式会社すみか（オブザーバー）	B

■事務局

	氏名	所属・役職
1	佐藤 圭一	学校教育部長
2	吉田 憲史	調整担当部長
3	田中 裕樹	学校教育部学びのプロジェクト担当課長
4	村山 拓己	学校教育部学びのプロジェクト担当課プロジェクト担当係長
5	西野 功泰	学校教育部学びのプロジェクト担当課高等学校担当係長
6	坂間 卓朗	学校教育部教育課程担当課高等学校担当係長
7	森 誠一郎	学校教育部教育課程担当課高等学校担当係長